



国東半島宇佐地域

世界農業遺産シンポジウム

国東市で地域活性化策を探る

10月5日、アストくにさきで「国東半島宇佐地域世界農業遺産シンポジウム」が開催されました。会場には国東市民をはじめ、県内外から農業や食の関係者など約500人が集まり、世界農業遺産認定を地域活性化につなげる方策を探りました。

このシンポジウムは、県や市町村・関係団体などで組織する国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会（林浩昭会長）の主催。開会行事で林会長は、「世界農業遺産の認定にご尽力いただいたみなさまに感謝します。世界に認められた農林水産業とふるさと国東半島に誇りを持ち、時機を逃さずに継承と発展に努力しましょう」とあいさつ。また広瀬勝貞知事は、「認定はあくまでもスタートライン。住民の理解を深め、日本中から観光や勉強に来ていただけるように、県外にも情報発信していきましよう」と呼びかけました。

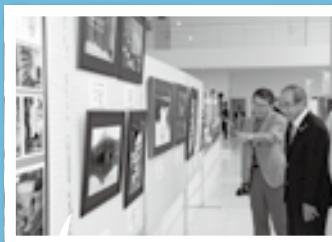
つづいて世界農業遺産基金（本部・ローマ）代表のパルヴィス・クーハフカン氏が「ジアス（世界農業遺産）認定とその活用について」と題して基調講演。世界各地の認定地域の現状報告や、農業遺産の保全・発展の重要性を語りました。

パネルディスカッションでは、「国東半島宇佐地域における世界農業遺産の活用」をテーマに、パネリストらが農業や地域づくりの取り組みについて意見を交わしました。



●七島イの工芸品展示

七島イの生産者らで平成22年に発足した「くにさき七島蘭振興会」の会員が、円座やラグマット、草履などを展示しました。国内唯一の生産地である国東市。七島イを日常生活にも活用してほしいという願いが込められています。



●世界農業遺産の里写真展

市内の写真愛好家で作る「写団くにさき」の会員が、世界農業遺産認定を記念して国東半島宇佐地域の風景や人々の営み、七島イ生産の写真を展示しました。広瀬知事も興味深く見つめていました。



シンポジウム スナック